

防コミの歩き方



土砂災害へ対応するために

熊野地区防災福祉コミュニティ

兵庫区北西部に位置する熊野地区防災福祉コミュニティは、地域内に土砂災害警戒区域や狭隘道路を抱えています。また、古くからの住宅地が多く存在し、住民の高齢化も進んでいます。

このような事情から「災害時の要援護者支援」が地域の重要課題となっており、平成22年に「手上げ方式」による「災害時みんなでお助け隊」を結成、以来、「お助けニュース」の発行、支援者への研修会や要援護者避難支援訓練などを実施してきました。さらに、昨年度には神戸市と要援護者支援に関する協定を締結、地域の幅広いニーズに応えるための努力をし、災害発生に備えています。

避難に関するアンケート

昨年7月の西日本豪雨では土砂の流出が発生、一部地域に避難指示が発令されました。その後も相次ぐ台風の接近により、大勢の住民が避難を余儀なくされる状況が続きました。

防災福祉コミュニティでは無線機などを活用し、災害状況の把握や住民への避難の

呼びかけをおこない対応しましたが、土砂災害の恐ろしさを痛感した私たちは、その時の避難に関する住民の対応についてアンケート調査を実施し、今後の活動に生かすことにしました。

アンケートは熊野地区より山側の7自治会769戸を対象に、実際に避難した方には「避難先」や「避難を始めたタイミング」などを、そして避難しなかった方には「その理由」などを調査し、514戸67%から回答を得ました。

シンポジウムの開催

アンケートで集まった回答を集約・分析し、その結果を住民にフィードバックするためのシンポジウムを昨年度末に開催、自助（住民）・共助（防コミ）・公助（行政）それぞれの立場から当時の対応について意見交換をおこない、短い時間でしたが今後の課題を明確にすることができました。



今年度は、その課題を解決するための検討会を自治会単位で実施し、避難に関する住民一人一人の意識の向上を図り、防コミとしての対策を検討するとともに行政への働きかけをおこなっていきます。

（熊野地区防災福祉コミュニティ）

